

コロナ禍における働き方改革への取り組み紹介 Introduction of the measures of work style reform in the coronavirus crisis



坂崎 尚史
Naofumi Sakazaki

機械事業本部
技術部

当社ではこれまでも種々の業務効率化に取り組んできたところであるが、働き方改革関連法案の施行を機により一層の業務改善が求められるようになった。更に直近では新型コロナウイルス感染拡大に伴い、公共交通機関による出張や面着による社内打合せ・顧客折衝といった従来からの業務スタイルを遂行すること自体が益々困難な状況になっている。コロナ禍における、「会えない」、「集まらない」不便を解消した新たな業務スタイルが求められる中、従来スタイルからの脱却を指向した当社の取り組み例を以下に紹介する。

We have been working on various ways to improve our business efficiency, but with the implementation of “Acts to Promote Work Style Reform”, we are now required to improve our business even more. Furthermore, with the recent spread of the new coronavirus infection, it has become increasingly difficult to carry out conventional work styles, such as business trips by public transportation, face-to-face internal meetings, and negotiations with customers. As response to the need for a new work style which eliminates the inconvenience of "not being able to meet" and "not being able to get together" due to the coronavirus crisis, we are going to introduce some examples of our efforts to break away from the conventional style as follows.

1. 遠隔地を結んだリモートデザインレビューへの取組み

当社の主要業務の一つであるエンジニアリング業務を進めるうえで、社内知見者・有識者によるデザインレビューが不可欠である。これまでは、案件毎に当該設備に精通した複数の担当者を招集する形で検討会を開催し、基本計画の段階から機能確保およびリスク回避を図ってきた。各担当者のスケジュール調整が難航することで、エンジニアリングスケジュール全体が間延びし、ややもすると購入品調達や製作フェーズの工程を圧迫することがあった。又、面着での打合せが困難な場合はTELやメールでの遣り取りとなるが、面着に比べると相互の意思疎通が不足することは否めない。

これらの課題を改善すべく、当社で導入したのが『インタラクティブプロジェクター（EPSON社製）を活用したリモートデザインレビュー』である。遠隔地間を社内ネットワーク回線で接続し、デスク上に図面や資料を投影、投影された共有資料への修正やコメント書き込みがリアルタイムで相手方資料にも反映され、同一資料を双方で共有しながらの検討会が可能になるシステムである。これにより面着での打ち合わせと比較しても遜色ない活発な議論が可能になり、スケジュール調整、移動等の省力化を果たしている。又、各エリアよりデザインレビューに参加して多くの意見が挙がることで当該案件のエンジニア品質向上のみならず、各エリア担当者への技術伝承にも寄与している。

直近では、上述したエンジニア担当者によるデザインレビューに留まらず、調達・製作・施工担当者を交えた案件全体のレビューにも活用している。製作者視点での構造や、据付工事の効率化を意識した施工担当者からの分割単位提案を基本計画段階から設計へ反映することで、手戻り防止等Totalでのエンジニアリングスケジュール短縮を果たしている。

<試用評価システム構成>



遠隔地間で図面共有



図1: インタラクティブプロジェクターによるリモートデザインレビューの様子

2. 移動制限下におけるリモート検査への取組み

新型コロナウイルス感染が拡大する中、国内外を問わず面着・集合形式の製作品立会検査が益々困難な状況になっている。当社では、現物を確認しながら検査を行う従来手法からの脱却を指向した『リモート検査』に取り組んでいる。市販のスマホやタブレットおよびビデオカメラとWeb会議システムを組み合わせることで検査対象、検査項目に応じた最適なりモート検査環境を模索している。当初、面着での検査と比較すると画像が見辛い、通信環境次第ではリアルタイムでの遣り取りが困難といった課題も散見されたが、試行錯誤を繰り返しながら各種最適ツールを見出すことでリモート検査の導入を拡大している。以下にリモート検査の一例を示す。

当社姫路工場での製作物に対して、発注元である日本製鉄株式会社殿東日本製鉄所釜石地区のご担当者様を当社東北支店会議室（岩手県／釜石市）にお招きし、スマホで撮影した製作物の画像を見ながらリアルタイムで遣り取りすることで外観検査、寸法検査、膜厚検査を実施した事例である。遠隔地間の意思疎通や現物確認においても従来の面着による立会検査と遜色ない結果を得られ、今後の最適な業務スタイルの在り方を見出す上で確かな手応えを感じる事ができた。

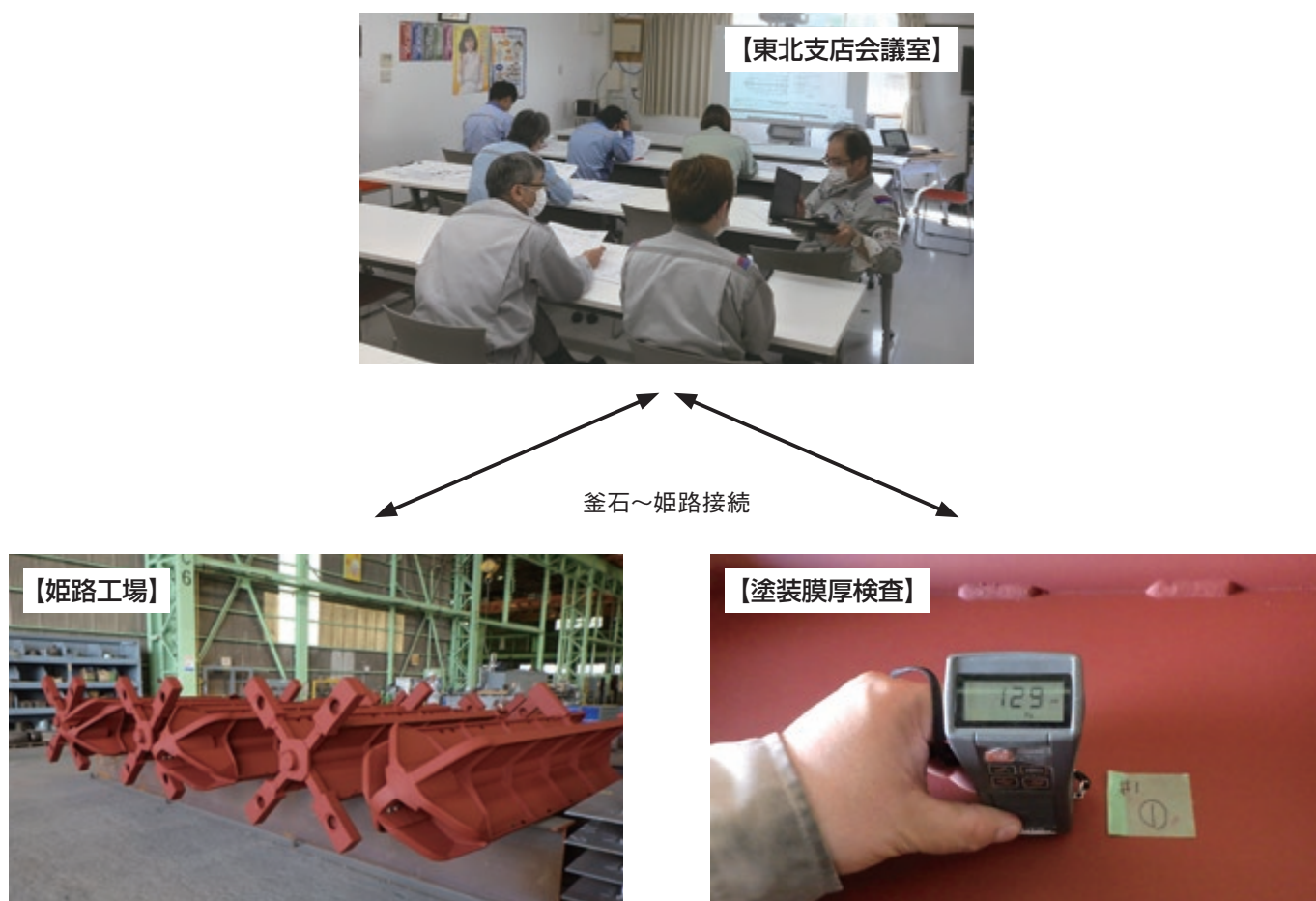


図2：リモート検査への取組み

お問い合わせ先

機械事業本部 技術部

TEL 03-6860-6631